

キュウリ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	べと病	疫病	灰色かび病	褐斑病	菌核病	黒星病	苗立枯病	炭疽病	つる割病	つるこ病	うどんこ病	斑点細菌病
サンボルドー水	M1		-	-	◎											◎
ハツパ乳	NC		-	-											◎	
ジーファイン水	M1・NC		1	-			◎									◎
タチガレン液	32		*d	3							フ					
トップジンM水	1		1	5			◎		◎	◎		◎	◎		◎	
トップジンMペースト	1		*e	5									◎			
ベンレート水	1		*a	3											◎	
			1													
エトフィンFL	22		1	4	◎											
アフェットFL	7		1	3			◎		◎							◎
カンタスDF	7		1	3			◎	◎	◎							
ケンジャFL	7		1	4			◎	◎	◎				◎		◎	
バシタック水75	7		*f	1							®					
バレード20FL	7		1	3			◎	◎	◎				◎		◎	
モンカット水	7		*f	1							®					
アミスター20FL	11		1	4	◎		◎	◎	◎			◎			◎	
ストロビーFL	11		1	3	◎			◎				◎			◎	
ファンタジスタ顆水	11		1	3			◎		◎							
ライメイFL	21		1	4	◎											
ランマンFL	21		1	4	◎											
フルピカFL	9		1	4			◎	◎								◎
セイビアーFL20	12		1	3			◎	◎	◎							
ロブラール500アクアFL	2		1	4			◎		◎				◎			
ロブラール水	2		1	4			◎		◎				◎			
サプロール乳	3		1	5												◎
スコア顆水	3		1	3						◎						◎
トリフミン水	3		1	5						◎						◎
トリフミン乳	3		1	5												◎
ピクシオDF	17		1	4			◎		◎							
ベジターボDF	19		1	2			◎									◎
ポリオキシシンAL溶	19		1	2			◎									◎
スマレックス水	2		1	6			◎		◎				◎			
リゾレックス水	14		*g	1							®					
プレビクールN液	28		*g	3							®	®				
			*h													

キュウリ

キュウリ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	べと病	疫病	灰色かび病	褐斑病	菌核病	黒星病	苗立枯病	炭疽病	つる枯病	つる割病	うどんこ病	斑点細菌病
フェスティバル水	40		1	3	◎											
アリエッティ水	P7		1	3	◎											
ピシロックFL	U17		1	3	◎											
キノンドーFL	M1		1	5	◎							◎				◎
サンヨール乳	M1		1	4	◎											◎
ヨネボン乳	M1		1	4												◎
ジマンダイセン水	M3		1	3	◎	◎		◎		◎		◎	◎			◎
ペンコゼブ水	M3		1	3	◎			◎		◎		◎				
ペンコゼブFL	M3		1	3	◎			◎				◎				
オーソサイド水80	M4		*b	5							◎					
			1	◎			◎			◎	◎					
ダコニール1000FL	M5		*c	2							®					
			1	12	◎		◎	◎		◎		◎				
ベルクートFL	M7		1	7			◎	◎	◎	◎		◎				◎
パルミノFL	M10		1	3												◎
モレスタン水	M10		1	3												◎
エコピタ液	—		1	—												◎
テーク水	3・M3		1	3	◎		◎	◎				◎				◎
アミスターオブティFL	11・M5		1	4	◎		◎	◎	◎	◎		◎				◎
ピカットFL	7・9		1	3			◎	◎	◎	◎						◎
パンチョTF顆水	3・U6		1	2												◎
ジャストフィットFL	43・40		1	3	◎											
ジャストミート顆水	12・17		1	3			◎		◎							
フォリオゴールドFL	4・M5		1	3	◎			◎								◎
ベジセイバーFL	7・M5		1	3	◎		◎	◎		◎		◎				◎
カスミンボルドー水	24・M1		1	5	◎											◎ ◎
スミブレンド水	10・2		1	5			◎	◎	◎							
ゲッター水	1・10		1	5			◎	◎	◎			◎				
ニマイバー水	1・10		1	3			◎	◎	◎			◎				

キ
ユ
ウ
リ

キュウリ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	べと病	疫病	灰色かび病	褐斑病	菌核病	黒星病	苗立枯病	炭疽病	つる枯病	つる割病	うどんこ病	斑点細菌病
リドミルゴールドMZ顆水	4・M3		1	3	◎											
ファンベル顆水	11・M7		1	3			◎	◎	◎	◎		◎			◎	
ホライズンDF	11・27		1	3	◎											
ダイナモ顆水	21・27		1	3	◎											
ドーシャスFL	21・M5		1	4	◎			◎		◎		◎			◎	
ショウチノスケFL	9・U13		1	2			◎								◎	
ゾーベックエニベル顆水	49・M3		1	2	◎											
ダイアメリットDF	19・M7		1	2			◎	◎	◎			◎			◎	
ポリベリン水	19・M7		1	2			◎	◎							◎	
バトファイター顆水	40・27		1	3	◎											
フェスティバルC水	40・M1		1	3	◎											
カンパネラ水 ベネセット水	40・M3		1	3	◎			◎								
カーニバル水	40・M5		1	3	◎			◎				◎			◎	
プロポーズ顆水	40・M5		1	3	◎			◎		◎					◎	
カーゼートPZ水	27・M3		1	3	◎											
ブリザード水	27・M5		1	3	◎			◎				◎			◎	

*a: 定植前～定植1ヵ月後 *b: 播種後～2～3葉期まで
 *c: 播種時又は活着後(但し定植14日後まで) *d: 播種直後 *e: 発病初期
 *f: 播種時～子葉展開時 *g: 播種時
 *h: 苗床=播種直後、本圃=定植直後及び生育初期(但し収穫21日前まで)
 ◎: ピシウム菌による病害 ®: リゾクトニア菌による病害
 フ: フザリウム菌又はピシウム菌による病害 立: 立枯性病

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	使用条件	アブラムシ	コナジラミ	アザミウマ	タバコバエ	ハモグリバエ	ウリノメ	ウリノメ	ハスモンヨトウ	ネキリムシ	ウリハムシ	コガネムシ	ケラ	ハダニ	ネコブセンチュウ
除虫菊乳3	3A		1	5		◎		◎											
スピノエース顆水	5		1	2				◎		◎	◎								
コロマイト乳	6		1	2		◎				◎									◎
スプレーオイル			-	-															◎
トモノールS			-	-															◎
ハツバ乳			-	-															◎
ハーベストオイル			-	-															◎
ラビサンスプレー			-	-															◎
バイデートL粒	1A	劇	*h *c *d	1		◎		ナ											ネ
オルトラン粒	1B		*a	1		◎	オ	◎					◎						
サイアノックス乳	1B		*f	2		◎	◎	◎											
ジェイエース粒	1B		*a	1		◎	オ	◎											
スミチオン乳	1B			1	5	◎		◎											
ダイアジノン乳40	1B	劇	*a	1		◎													◎
ネマキック粒	1B		*d	1															◎
ネマトリンエース粒	1B		*c	1															◎
マラソン乳	1B			1	3	◎								◎					◎
ラグビーMC粒	1B		*d	1															◎
アードント水	3A			1	4	◎	オ	カ											◎
アグロスリン乳	3A	劇		1	5	◎	オ	ナ		ト									
アディオン乳	3A			1	3	◎	オ							◎					
サイハロン乳	3A	劇		1	3	◎	オ												
テルスターFL	3A	劇		1	3	◎													
トレボンEW	3A			1	3	◎	◎												
トレボンMC	3A			1	3	◎					◎								
マブリック水20	3A	劇		1	2	◎	オ												
ロディー乳	3A	劇		1	5	◎	オ												◎
アクタラ顆溶	4A			1	3	◎	◎	カ											
アクタラ粒5	4A		*a	1		◎	◎			ト									
アドマイヤー1粒	4A		*a *e	1		◎	◎	◎											
アドマイヤー顆水	4A	劇		1	3	施	◎	◎	◎										
アルバリン顆溶	4A			1	2	◎	◎	◎						◎					
スタークル顆溶	4A																		
アルバリン粒	4A		*a			◎	◎	◎		◎									
スタークル粒	4A		*h *i	1		◎	◎			◎									
ダントツ溶	4A			1	3	◎	◎	ナ											

キ
ユ
ウ
リ

キュウリ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒毒性	使用時期(回数)	使用回数	使用条件	アブラムシ	コナジラミ	アザミウマ	タネバエ	ハモグリバエ	ウリノメイガ	ハスモンヨトウ	ネキリムシ	ウリハムシ	コガネムシ	ケダニ	ハダニ	ネコブセンチュウ
ダントツ粒	4A		*a *e *o	1 3		◎ ◎	◎ ◎	ナ ナ										
バリアード顆水	4A	劇		1	3	◎					◎							
ベストガード溶	4A			1	3	◎	◎	ナ										
ベストガード粒	4A		*h *a *s *r	1		◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎										
モスピラン顆溶	4A	劇		1	3	◎	◎	◎			◎		◎					
モスピラン粒	4A		*a *p	1 1		◎ ◎												
トランスフォームFL	4C			1	2	◎	◎											
ディアナSC	5			1	2			◎	◎									
アニキ乳	6			1	3	◎					◎							
アフーム乳	6			1	2		◎	◎		◎	◎							
アグリメック乳	6	劇		1	2		◎	◎										◎
コルト顆水	9B			1	3	◎	◎											
チェス顆水	9B			1	3	◎	◎											
ニッソラン水	10A			1	2													◎
バロックFL	10B			1	1													◎
コテツFL	13	劇		1	3			ミ ナ			◎		◎					◎
カスケード乳	15			1	4			ナ		ト	◎							
デミリン水	15			1	2			ナ										
マッチ乳	15			1	3		◎				◎							
アブロード水	16			1	3			お										
マトリックFL	18			1	3						◎							
カネマイトFL	20B			1	1													◎
マイトコーネFL	20D			1	1													◎
サンマイトFL	21A	劇		1	2	◎	◎											◎
ダニトロンFL	21A			1	1													◎
ハチハチ乳	21A	劇		1	2	◎	◎	◎			◎							
ピラニカEW	21A	劇		1	1	◎												◎
モベントFL	23		*n	1 3		灌 ◎	灌 ◎	灌 ◎										灌 ◎
ダニサラバFL	25A			1	2													◎
フェニックス顆水	28			1	3						◎	◎						
プリロツ粒	28		*s *q	1		◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎		◎								

キ
ユ
ウ
リ

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	コ	ア	タ	ハ	ウ	ハ	ネ	ウ	コ	ケ	ハ	ネ
						ブ ラ ム シ 類	ナ ジ ラ ミ 類	ザ ミ ウ マ 類	ネ バ エ 類	モ グ リ バ エ 類	リ ノ メ イ ガ ウ 類	ス モ ン ヨ ト ウ 類	キ リ ム シ 類	リ ハ ム シ 類	ガ ネ ム シ 類	ラ 類	ダ ニ 類	セ ン チ ユ ウ 類
プレバソンFL 5	28		*n 1	1						灌	◎							
ベネビアOD	28		1	3		◎	◎	◎		◎	◎							
ベリマークSC	28		*n 1			灌	灌	灌		灌								
ヨーバルFL	28		1	3		◎	◎	◎		◎	◎							
			*n 1			灌	灌			灌								
ウララDF	29		1	3		◎												
グレーシア乳	30		1	2			◎	◎		◎	◎	◎						◎
プレオFL	UN		1	2				◎		◎								
バルミノFL	UN		1	3			◎											
モレスタン水	UN		1	3			◎											
エコピタ液	-		1	-		◎	◎											◎
サンヨー乳	-		1	4		◎	◎											◎
マラバッサ乳	1A・ 1B	劇	1	3		◎		ミ										
アベイル粒	4A・ 28		*n 1			◎	◎	◎						◎				
ダブルシューターSE	5・		1	2			◎	◎		◎	◎							◎
アフファームエクセラ顆 水	6・ 15		1	2				ナ			◎							
アプロードエースFL	16・ 21A		1	3			◎											
ボリベリン水	--		1	2				◎										◎

*a:定植時 *b:播種時又は定植時 *c:播種前又は定植前 *d:定植前

*e:育苗期後半 *f:収穫開始3日前まで *h:育苗期

*i:生育期(但し収穫開始14日前まで)

*n:育苗期後半～定植当日 *o:定植後(但し収穫前日まで)

*p:定植後(但し収穫30日前まで) *q:育苗期後半～定植時 *r:播種時

*s:鉢上げ時

お:オンシツコナジラミ幼虫 オ:オンシツコナジラミ

カ:ミカンキイロアザミウマ ト:トマトハモグリバエ

ナ:ミナミキイロアザミウマ

ネ:ネコブセンチュウ及びネグサレセンチュウ

ミ:ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ

幼:幼虫

灌:灌注処理での登録

施:施設栽培

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	早熟(露地)											
	べと病											
	つる枯病											
	うどんこ病											
虫 害	アブラムシ類											

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	苗床期 ～生育期	1. 排水を良好にし、マルチ栽培を行う。 2. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 1500～2000倍 カスミンポルドー(水) 1000倍 カーゼートPZ水和剤● 1000～1500倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 ドーシャスフロアブル● 1000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1000～1500倍 ホライズンドライフフロアブル● 2500倍 リドミルゴールドMZ(顆水)● 1000倍 3. 施設栽培では発病前からくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
疫病	播種前	1. 床土消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 2. 冠水しやすい低湿地での栽培をさける。	
	生育期	・発病を認めたら次の薬剤を散布する。 ジマンダイセン水和剤 600倍	
灰色かび病	定植時	1. 施設では換気をはかり多湿にならないようにする。 2. 病果・病葉は早めに除去し、焼却する。 3. 施設栽培では発病前からくん煙剤を使用する◇。	◇くん煙剤の項参照

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	・床土は消毒をする(土壤消毒の項参照)。	本病はリゾクトニア菌、ピシウム菌による。 #1リゾクトニア菌にのみ有効 #2ピシウム菌にのみ有効 #3ピシウム菌とフザリウム菌に有効
	苗床期	・発病を認めたら被害株は抜き取り跡地とその周囲に次の薬剤のいずれかを灌注する。 オースサイド水和剤80 800倍 2ℓ/㎡ ダコニール1000(FL)#1 1000倍 3ℓ/㎡ バシタック水和剤75#1 750~1500倍 3ℓ/㎡ プレビクールN液剤#2 400倍 3ℓ/㎡ タチガレン液剤#3 500~1000倍 3ℓ/㎡	
つる枯病	生育期	1. 初発時から次の薬剤のいずれかを散布し予防する。 ジマンダイセン水和剤 600倍 スミレックス水和剤● 1000倍 トップジンM水和剤● 1500~2000倍 2. 茎に発生を見たら、病斑部にトップジンMペーストを塗布する。ただし、幼苗期には薬害を生じやすいので注意。	他のウリ科植物にも発生する。多湿条件が続くと多発しやすい。また、発病の適温が比較的広い。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
つる割病	播種前	1. 床土を消毒する(土壤消毒の項参照)。 2. 発病畑は輪作を計画的に行うか、土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。	病原菌は長期間土中に残る。主としてキュウリを侵すが、メロンも侵される。新土佐、黒だね、スーパー、雲竜などのカボチャを台木とする。接木栽培は病害の回避に有効である。
	苗床期~定植後	1. 接木栽培を行う。発病株は早期に抜き取り処分する。 2. 初発時にはベンレート水和剤1000倍を灌注する(150~300ml/株、定植1カ月後まで)	
うどんこ病		・施設栽培では発病前からくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。	

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(うどんこ病)	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> ダコニール1000 (FL) 1000倍 パンチョ T F 顆粒水和剤● 2000倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍 ベルコートフロアブル 2000倍 ポリオキシシン A L 水溶剤 5000倍 モレスタン水和剤 2000～4000倍 	<p>一般にハウス内が高温のときには薬害がやすい。</p> <p>下葉の初期病斑を見落とさないようにし、予防的に防除する。薬剤は葉裏にも良くかかるように散布する。</p> <p>●DMI 剤は連用しない。</p>
斑点細菌病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 施設では過湿に注意する。 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> カスミンボルドー(水)△ 1000倍 サンボルドー(水)△ 500倍 Zボルドー(水)△* 500倍 	<p>灌水時に葉へ水が飛散しないようにする。露地栽培でも冷涼で降雨の続くとき多発しやすい。</p> <p>△銅剤の連続散布は薬害を生じやすい(葉の硬化、黄変、生育抑制)。幼苗期には低濃度か有機銅剤を散布する。</p> <p>*野菜類での登録</p>
アブラムシ類	定植時	<ol style="list-style-type: none"> 施設栽培では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い0.8mm以下の防虫ネットを張る。 次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 <ul style="list-style-type: none"> オルトラン粒剤 1～2 g /株 アドマイヤー1粒剤 1～2 g /株 ベストガード粒剤 1～2 g /株 	<p>高温乾燥で発生が多い。</p>
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> ウララDF 2000～4000倍 コルト顆粒水和剤 4000倍 サンマイトフロアブル 1000～1500倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍 	<p>葉裏や成長点によくかける。</p>
ミカンキイロアザミウマ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> アルバリン顆粒水溶剤# 2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スタークル顆粒水溶剤# 2000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍 	<p>#アザミウマ類での登録</p>

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ミナミキ イロアザ ミウマ	定植時	・次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 オルトラン粒剤# 1～2g/株 アドマイヤー1粒剤# 1～2g/株 ベストガード粒剤# 1～2g/株	#アザミウマ類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤# 2000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍 モスピラン顆粒水溶剤# 2000～4000倍	
コナジラ ミ類	定植時	・次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アクタラ粒剤5 1g/株 ベストガード粒剤 1～2g/株	施設内では年間を通じて発生を繰り返し、吸汁害よりもスズ病の被害がキュウリでは大きく、キュウリ黄化病も媒介する。 発生がひどくなると防除が極めて困難になるため、黄色粘着トラップ(誘因リボン)等で成虫の数を監視し、早期防除を心がける。 #1天敵に対する影響が少ない。 #2殺成虫及び殺卵効果があり天敵に対する影響が少ないが、高温時の散布で薬害が出やすい。 ◇「くん煙剤等の使用方法」参照
	生育期	1. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アプロードエースフロアブル#1 1000～2000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2000～3000倍 コルト顆粒水和剤 4000倍 コロマイト乳剤 1500倍 サンマイトフロアブル 1000～1500倍 スタークル顆粒水溶剤 2000～3000倍 ベストガード水溶剤 1000～2000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000倍 モレスタン水和剤#2 2000倍 2. 施設栽培ではくん煙剤も使用する◇。	
タネバエ	播種時または定植時	・次の薬剤を土壌混和する。 ダイアジノン粒剤5 4～6kg/10a	有機質肥料や未熟堆肥を施すと発生が多い。
トマトハ モグリバ エ	生育期	1. 施設栽培では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い0.8mm以下の防虫ネットを張る。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤# 2000倍 カスケード乳剤 2000倍 プレバソンフロアブル5# 1000～2000倍	幼虫が葉内を食害しエカキ状の被害となる。 #ハモグリバエ類での登録

キュウリ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> カスケード乳剤 2000倍 デルフィン顆粒水和剤* 1000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000倍 	*野菜類での登録
ウリハムシ	成虫発生時	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> コテツフロアブル 2000倍 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍 	
ハダニ類	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 <ul style="list-style-type: none"> カネマイトフロアブル 1000~1500倍 サンマイトフロアブル 1000~1500倍 ダニトロンフロアブル 2000倍 施設栽培ではくん煙剤も使用する◇。 	高温乾燥が続くと発生が多い。葉裏に薬をよくかける。 ◇「くん煙剤等の使用方法」参照
ネコブセンチュウ	播種前	<ul style="list-style-type: none"> 床土は土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 	
	定植前	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤のいずれかを定植前に散布して土壤混和する。 <ul style="list-style-type: none"> ネマキック粒剤 15~20kg/10 a ネマトリンエース粒剤 15~20kg/10 a ラグビーMC粒剤 20~30kg/10 a 	
その他の害虫		キボシマルトビムシ	